

# わが国初の電気機器製造会社 三吉工場

- 住所  
東京都港区西新橋1-7
- 交通アクセス  
地下鉄銀座線  
虎ノ門駅 1番出口 100m

## ■ 電力機器の製造

三吉(みよし)工場は、わが国で最初に電力用の重電機器類を製造した会社で、わが国の重電機器工業界の黎明期における国産化、発展に大きく貢献しました。

明治18年(1885)、東京銀行集会所の落成記念式典において、白熱電灯40灯を点灯した5kW直流発電機は、藤岡市助\*1の設計・監督により三吉工場で作られた、わが国初の白熱電灯用直流発電機であるといわれています。

同工場は、明治16年(1883)、電信寮製機所\*2を退所し独立した三吉正一により、芝区南佐久間町1丁目1番地(現在の港区西新橋1丁目)の自宅を改装し設立されました。

\*1 藤岡市助 日本のエジソンと称され、明治19年(1886)、工部大学校の教授を退官し東京電燈会社の技師長になり、明治の黎明期における電燈普及と電気機器国産化の技術確立に奔走しました。

\*2 電信寮製機所 三吉正一が電機技術を習得した工部省電信寮製機所は、明治6年(1873)、通信機器(輸入品が多かった)を修理するために設立された官営工場です。明工舎(現・沖電気工業)を創設した沖牙太郎、田中製造所(現・東芝)を設立した田中久重(二代目)など、わが国電機業界のパイオニア達を輩出しています。

## ■ 当時の地図での場所

図1は、三吉正一が三吉工場を設立してから4年後の明治20年(1887)の地図です。「三吉工場」は住所表示から赤丸印のところになります。

ところで、左上に工部大学校がありますが、前



図1 明治20年(1887)の地図  
三吉工場設立の4年後 港区立港郷土資料館蔵

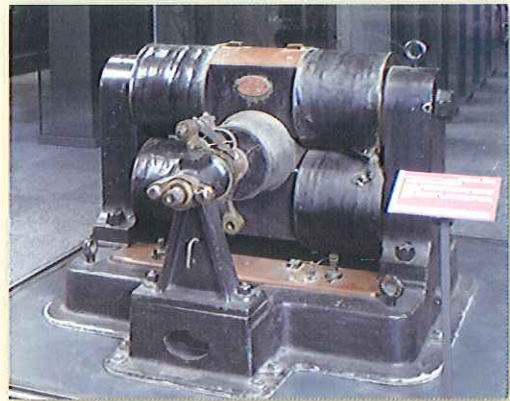


写真1 明治21年、三吉工場が宮城紡績三居沢紡績所に納入したものと同型の発電機  
工部大学校製、明治19年製造、直流5kW  
東京大学工学系研究科電気工学系専攻蔵

述の藤岡市助が教授として明治19年(1886)まで在官していたところで、同工場とは200m程です。

## ■ 現在の状況

明治時代の地図(図1)を参考に、現在の地図(図2)において、三吉工場の位置を追うと、堀は埋められてしまっていますが、太い道路区画はほとんど同じで、この区画より「三吉工場跡」と記した赤丸のところになります。

現地を訪ねたところ、三吉工場があったと思われる場所は、西新橋1丁目交差点の南東方向角で、「虎ノ門セントラルビル」他があり、住所は西新橋1丁目7番地でした。

なお、辺りを調べてみましたが、当時を偲ぶようなものは見当たりませんでした。



図2 現在の地図  
目標は虎ノ門セントラルビル



写真2 三吉工場跡  
目標は虎ノ門セントラルビル

### ■三吉正一と三吉工場（三吉電機工場）

三吉正一（みよし しょういち、1853～1906）は、岩国藩（今の山口県岩国市）出身で、明治8年（1875）富岡製糸場に入社し、2年後に足踏み製糸機械を発明しました。その後、工部省の電信修技学校で学び2年後に卒業し、工部省電信寮製機所に勤めました。同所では細銅線絹巻機械を発明し同線の国産化に成功しました。明治16年（1883）、前述のとおり自宅を改装し「三吉工場」を設立しました。

藤岡市助とは藩校以来の盟友で、藤岡の結婚の媒酌もするほどの仲でした。藤岡市助が設計する発電機や電燈用機械器具を三吉正一が製造するといった関係が長年にわたって続きました。明治23年（1890）には、現練東芝のルーツの一つである白熱舎を藤岡市助と共同で創設しています。

二人は、わが国電気業界の黎明期に電気機器の国産化を目指し、二人三脚で業界を牽引していたといえます。

独立創業後、雷管爆発用手回し発電機や白熱電燈用の直流発電機を製造しながら事業を拡大し、明治20年（1887）には、工場を芝三田四国町に移すとともに社名を「三吉電機工場」に改め、発電機、電動機、電気鉄道用諸機械、避雷針、各種電線などを製造し、明治の重電機器工業界を担う大工場に成長していきます。

三吉電機工場が製造したもので特記されるものを挙げると、

- ・明治18年（1885）木綿巻き電線を国産化しました。2年後に新皇居造営の電燈工事を東京電燈会社が拝命した際、同電燈会社にこの電線を納入しました。この電線は「東京線」と呼ばれ、この呼称は昭和20年（1945）頃まで用いられていました。

- ・明治21年（1888）、日本初の水力発電と記録される宮城紡績三居沢紡績所の5kW直流発電機\*を納入しました。この頃、各地に設立された電燈会社の電燈工事を東京電燈会社が請負っていますが、これらの発電機の多くを納入しています。

また、明治28年（1895）、日本で初めて開通した京都市街鉄道の電車用電動機を納入しました。

\*その2年前に製造された同型機が電気史料館に展示されています。（写真1参照）

### ■三吉電機工場の場所

明治20年（1887）の改名・移転後の「三吉電機工場」があった芝三田四国町の場所は、現在地図（図3）の赤丸印のところで、住所は港区芝3丁目40番地です。

ところで、明治29年（1896）には、前述の三吉正一と藤岡市助が共同創設した白熱舎が、事業拡大のため社名を東京白熱電燈球製造株式会社に改名し、近くに移転してきていますが、その地は青破線丸のところ（住所は芝3丁目24番地）



図3 現在地図における三吉電機工場跡と東京白熱電燈球製造跡

### ■三吉電機工場の終焉とその後

工場を芝三田四国町に移して11年、事業は順調に拡大していましたが、日清戦争後の反動不況により経営に行き詰まり、明治31年（1898）に廃業に追い込まれてしまいました。

三吉電機工場の廃業後については、廃業時に、大阪電燈の技師長を務めたことがある岩垂邦彦は、前田武四郎の資金援助を受けて三吉電機工場を買収し、米国ウェスタン・エレクトリック社と合弁の日本電気合資会社（現日本電気株式会社）を発足させました。これにより工場は、電話機など通信用機器を製造する工場に変身していきます。このことから、三吉電機工場のあった場所は日本電気株式会社の発祥の地にもなっています。なお、日本電気株式会社の社史には、創業時の顧問として三吉正一の名が残されています。

三吉電機工場は多くの人材を育てました。日本電気の創業者の一人である前田武四郎、明電舎を創業した重宗芳水、アンリツの創業者の一人である石黒慶三郎などがいます。